

「税について」

留萌市立港南中学校 二年 清水 優来

私にとって、一番身近な税は買い物をしたときにかかる消費税です。

消費税とは、消費一般に対して広く公平に課される税です。そのため、原則として全ての財貨・サービスの国内における販売、提供などが課税対象であり、事業者を納税義務者として、その売り上げに対して課税されます。

消費税は平成元年四月から始まり、三パーセントでしたが平成九年には五パーセント、二十六年には八パーセントに引き上がり、令和元年に十パーセントになりました。消費税が十パーセントに上がることをテレビのニュースで見るとき、私の家族は話し合いをして、「消費税が上がる前に色々買物したほうがいいよね。」と話をして日用品などを買っていました。

そのとき私は、漠然と消費税なんてなくなればいいと思いました。それでも、家族はしようがないよねと、受け入れている姿を見て税金は何に使われているのか気になり、調べました。

税金は病気や怪我で病院に行ったときの医療費や、お年寄りの介護費用や年金、子育てしやすい環境、公共施設や公共サービスを提供するのに使われています。なので、学校や教科書、公園や病院なども税金で造られていることを知りました。

私は普段から、税金のお世話になっていて私だけではなく、国民みんなも税金を使って生活していたことを知り、税金がなくなると救急車で運んでもらうのにもお金がかかったり、信号がなくて事故がおこりやすくなってしまったりするのだと思いました。

まだ私は、消費税くらいしか税金について関わることはないかもしれないけど、税金は国民みんなのためになっているということを知り、心に留めて生活したいと思いました。

そして、税金のを知ることで、国民の不安や反感を軽減できると思いました。何も知らないで、税金を支払うより知って支払うほうが気持ちも違います。

税金の役割を知らない人にも、税金の事について調べたり、学ぶ機会があれば率先して参加し、家族内でも学んだことを話してほしいと思ったので、私も家族と税について話したいと思います。